

2 1994年県下養殖魚類等の病害発生ならびに対策状況

小 川 健

目 的

持込病魚等の検査・診断を行い、海面魚類養殖における適切な魚病対策を指導する。

方 法

調査依頼のあった病魚等について常法により細菌・寄生虫検査を行ない症状観察と併せて診断し、分離菌は必要に応じてディスク法による薬剤感受性試験を実施した。

結 果

1994年度の検査件数は81件で、河川の天然アユの斃死原因調査1件を含んでいる。

魚種別、月別病魚検査件数を表1に、これを基に、現場での観察や聞き取り情報等と併せて作成した県内魚病分布を図1に示した。

ブリでは連鎖球菌症の発生が最も多かった。類結節症は例年と同様の発生状況を示し、被害率は約10%であった。1昨年(1993年)から田辺湾で見られている細菌性溶血性黄疸は本年度も発生が見られたが、被害はごくわずかであった。また県北部の唐尾で発生したブリ1年魚の白点病では、約50%の被害が出た。マダイでは、イリドウィルス感染症が昨年と同じく由良町と田辺湾にみられ、0年魚では11.3~30.0%、1年魚では1.1~2.0の斃死率であった。しかし県下全体の総飼育尾数に対する被害率はそれぞれ0.28、0.03%と僅かであった。また串本町の袋漁場および串本・古座地域浅海漁場のマダイ2年魚に白点病が

発生し、飼育筏の移動等の対策を講じたが斃死の終息する様子が見られず、当業者は緊急出荷を行った。

トラフグでは、放流用に那智勝浦町勝浦湾で中間育成していた全長約32mmの稚魚に、7月、ピブリオ病が発生し、5万尾のうち約90%が斃死した。9、10月には由良町、広川町唐尾で発生した白点病で、1年魚がほぼ全滅に近い被害を受けている。

天然アユの斃死は、串本町有田の小河川の潮汐の影響を受ける河口域でみられ、アユのほかチチブも死んでおり、全ての検体から血清型Aタイプの *Vibrio anguillarum* が分離された。このほか、ボラのミキソポラス症も南部町地先の天然魚の症例であるが、斃死はなかった。

1994年度は、全国的な傾向ではあったが、県下全域で海水温が2℃前後高めに推移し、このためヒラメの連鎖球菌症、エドワジエラ症やブリの連鎖球菌症などが慢性的に発生し大きな被害を被ったこと、また白点病も8月から県下全域で発生がみられ、先述のとおり漁場水深の浅い養殖漁場のトラフグやマダイ、ブリに大きな被害が出たことが特記すべき事項であった。

なお、串本・古座地域浅海漁場の水深5m層に設置されたシーコムシステムからの1994年の水温データについて'93年と併せて図2示した。

表 1 月別・魚種別病魚持込み件数

魚 種	病 名	1994年										1995年			計		
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3月				
ブリ	ヒブリア病			2													2
	ヒブリア病・類結節症			2													2
	類結節症			2													2
	連鎖球菌症						2			1	1	1					5
	連鎖球菌症・黄だん症			1													1
	連鎖球菌症・類結節症				1	1											2
	白点病									1	1						2
小 計				7	1	3			1	2	1	1				16	
マダイ	ヒブリア病		2		1												3
	ヒブリア・滑走細菌感染症															1	1
	エトワジエラ症			1					1								2
	トリコデイ症			1													1
	白点病						1	1	2								4
	イトウイルス感染症				1	1	3	2									7
小 計		2	2	2	2	5	4								1	18	
ヒラメ	ヒブリア病	2			1	2					2						7
	ヒブリア・滑走細菌感染症		1					2			1				1		5
	連鎖球菌症				2	3											5
	エトワジエラ症					1					1						2
	ネオネチニア症									2	1						3
	ビルウイルス症										1						1
	イチホド症														1		1
小 計	2	1		3	6	2			2	6					2	24	
トラフグ	ヒブリア病		1	1	1												3
	ヒブリア・滑走細菌感染症								1								1
	ヒブリア病・ヘテロトツリウム症	1															1
	ヘテロトツリウム症	1	2											1			4
	トリコデイ症					1											1
	キトネラ症					1											1
	白点病							1	3								4
小 計	2	3	1	1	2	2	3							1		15	
シマアジ	シュートモナス感染症	3															3
カンパチ	連鎖球菌症									1							1
ボラ	ミキノボラス症									1							1
アユ	ヒブリア病	1															1
クルマエビ	ヒブリア病					1				1							2
合 計		8	6	10	7	14	9	8	7	7	1	1	3			81	

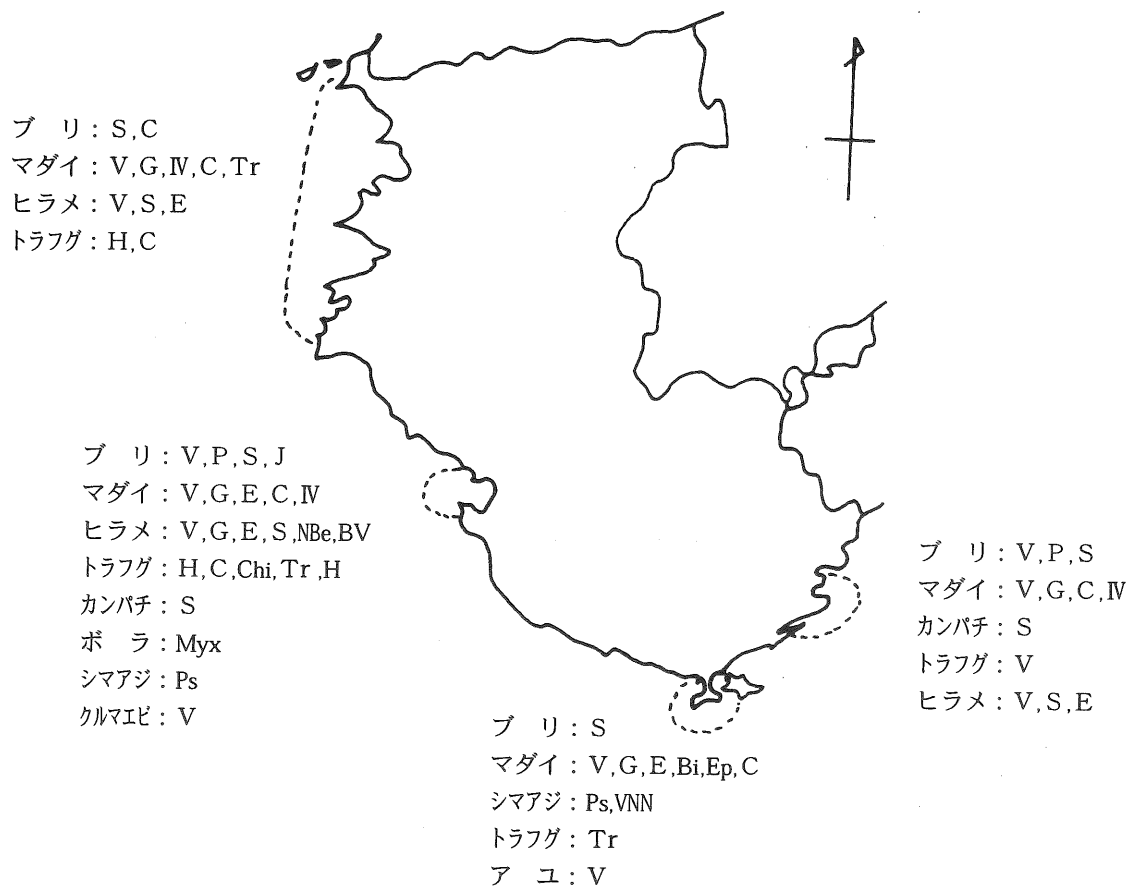


図1 県内魚病分布

- | | | | |
|---------------|---------------|-----------------|-----------------|
| V : ビブリオ病 | P : 類結節症 | S : 連鎖球菌症 | E : エドワジェラ症 |
| Ps : シュードモナス症 | J : 黄だん症 | G : 滑走細菌感染症 | VNN : 神経壊死症 |
| IV : イリドウィルス症 | BV : ビルナウィルス症 | H : ヘテロボツリウム症 | Ep : エピテリオシスチス症 |
| Chi : キロドネラ症 | Tr : トリコディナ症 | NBe : ネオベネディニア症 | Bi : ビバギナ症 |
| Myx : キミソボラス症 | C : 白点病 | | |

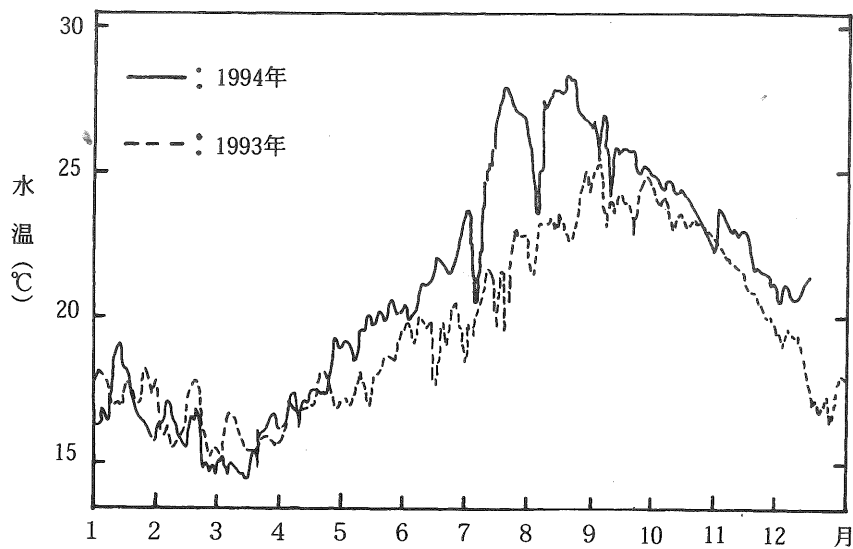


図2 串本浅海漁場 (5m) の年間水温経過. 1993, 1994年